



中国共産党は7月、「全面的な改革実施による中国式現代化の推進」と題した中長期国家戦略の基本方針を打ち出した。この中で、「中国式現代化」の本質は「人と自然の調和の現代化」で、その実現には生態系サービス



中国式現代化の基本方針

地球環境戦略研究機関主任研究員 金振氏

農業クレジットの事例

種類	プロジェクトタイプ	例示
取引できる削減クレジット	地方都市のパイロット版排出量取引制度	広東省: 森林削減クレジット 重慶市: 都市緑地削減クレジット
	国の排出量取引制度	森林、マングローブ削減クレジット
地方主導のクレジット市場	福建省廈門市の自主参加型クレジット取引所	茶畑由来の削減クレジット
地方政府主導のクレジット事業	江蘇省南京市高淳区の削減クレジット事業	水田削減クレジット、森林削減クレジットなど

(中国政府の発表資料などを基に作成)

生態系サービスが鍵

価値の商品化戦略が重要だと明記した。中国の生態系サービス価値の商品化の具体策として3点挙げられる。一つ目は、政府による補助金制度だ。2024年6月1日施行

した「生態系保護・補償条例」(日本の政令に相当)は、団体や個人が森林、草原、荒漠、海洋、河川などを対象に実施した生態系修復事業に対し、国と地方政府が補助金を支払う制度を法令化した。二つ目は、市場メカニズムの活用だ。中国では11年から北京など7省市で、二酸化炭素(CO₂)などの排出削減に向けてパイロット版排出量取引制度(ETS)を実験的に導入し、22年からは全国版

排出量取引制度を本格的に導入した。これら国・地方のETSでは、行政によって認定された森林炭素吸収量やマングローブ炭素吸収量などがクレジットとして取引されている。24年7月15日現在、クレジット累積取引量は4億7000万トン、価格は4年前の1.1当たり10元(200円)から7月の約78元(約1560円)まで上昇した。三つ目は、金融・保険制度との連携だ。農林水産事業の潜在的な生態系サービス価値、または炭素吸収量を担保に銀行融資や債券を発行する事業が推奨されている。例えば、中国農業発展銀行は、中国初の森林炭素吸収源・カーボンニュートラル債券を発行し、36億元(約720億円)の資金調達に成功した。今年の5月には、南京市が中国銀行と連携し、中国初の植物炭素価格保険商品を発売。同市高淳区全域の約260鈔農地と林地の炭素吸収価値は約48万元(約960万円)と見積もられ、計3万元(60万円)の保険料が確定した。中国の生態系サービス価値の商品化戦略は、単なる農業政策の枠を超え、中国脱炭素戦略の重要な政策ツールになりつつある。